

群 教 セ	E 03 - 03
	平17. 231集

# 信頼感やきずなをはぐくむ

## 人間関係づくりを目指して

—「子育て支援」と「学級・学年レクリエーション」を通して—

特別研修員 高橋 美保 (高崎市立新町第二小学校)

### 《研究の概要》

本研究は、不登校を未然に防ぐために心のつながりの場として「ほっとルーム」を設置し、「子育て支援」「子ども同士の交流」「教育相談」の三つの機能をもたせた。そして、「ほっとルーム」を拠点として、保護者に対して「子育て支援セミナー」を、児童に対して「学級・学年レクリエーション」を計画的・継続的に開催・実施することにより、児童や保護者、教師が、互いに信頼感やきずなをはぐくむ人間関係づくりを形成することができるよう支援した研究である。

**キーワード** 【教育相談 子育て支援 学年レクリエーション 学級・学年懇談会】

### I 主題設定の理由

本校には、4月当初不登校児童はいない。しかし、日頃から、学校（担任）と児童、保護者が不登校を未然に防ぐ心のつながりの基礎を作っておかなければならない。そこで、図書室の一角を「ほっとルーム」として、心のつながりの基礎を作る部屋とする。そして、「子育て支援」「子ども同士の交流」「教育相談」の三つの機能をもたせていこうと考えた。

さて、本校では、授業参観の出席率はほぼ100%に近いが、学級懇談会の出席率が低い傾向にある。例えば、現在担当学年の昨年度の学級懇談会出席率平均は、36.0%であった。理由は、教師より「魅力ある学級懇談会を提供できていない」、保護者より「学級・子どもに心配がない」「多忙」などが主な理由として挙げられている。従って、同じ学級・学年でも、保護者同士の面識があまりないため、十分な意志の疎通が図れていない。故に、子ども同士のトラブルの対処の仕方でも悩む保護者がいる。また、子育てに対する悩みを一人で抱え、相談者の必要性を感じている保護者もいる。

また、児童は、人間関係づくりにおいて必要な能力が未熟なため、小さな争いごとが絶えず、ちょっとしたけんかがもとで、長い間交友関係が修復できない児童がいる。

上記の実態を解決するためには、保護者同士が

互いに面識をもち、子育てに対する悩みを皆で考え、話し合う中で、担任も含めてよりよい人間関係を築き、また親子のきずなを築いていく必要がある。そして、児童は、遊びを通して仲間づくりを学び、互いに信頼感をもてる人間関係を築いていく必要があると考え、本主題を設定した。

### II 研究のねらい

不登校を未然に防ぐために人間関係づくりの場としての機能をもった「ほっとルーム」を設置し、「子育て支援セミナー」や「教育相談」「学級・学年レクリエーション」を通して、児童や保護者、教師が互いに信頼感やきずなをはぐくむためのよりよい人間関係を築くことを支援する。

### III 研究の見通し

#### 1 「子育て支援」

保護者に対して、「ほっとルーム」で計画的、継続的に「子育て支援セミナー」を開催すれば、保護者同士の交流が図れることで信頼関係が築かれ、情報交換しながら子育ての悩みを解決でき、より強い親子のきずなをはぐくめるであろうと考える。「子育て支援セミナー」は、第4学年52名の保護者を対象として、学年懇談会で4回、茶話会で1回、計5回開催する。

## 2 「子ども同士の交流」

児童に対して、計画的・継続的に「学級・学年レクリエーション」を行えば、子ども同士が遊びを通して人間関係づくりを学び、互いに信頼感をはぐくむ手助けとなるであろうと考える。

## 3 「教育相談」

「ほっとルーム」で、計画的または適宜、保護者や児童と面接を行い、悩みを共有し解決に向かって力を合わせていくことは、児童や教師、保護者が、互いに信頼感を深め、きずなをはぐくんでいくことにつながるであろうと考える。また、電話相談も、必要に応じていつでも実施するものとする。

## IV 研究計画

### 1 保護者への支援

保護者支援計画は、表1のとおりである。

表1 保護者支援計画

月 日	支援の内容	*セミナーの形式
5. 6	保護者実態把握アンケート実施	
5. 15	第1回「子育て支援セミナー」*懇談会	
6. 28	第2回「子育て支援セミナー」*懇談会	
7. 27	第3回「子育て支援セミナー」*茶話会	
7～8月	保護者個人面談	
9. 14	第4回「子育て支援セミナー」*懇談会	
11. 24	第5回「子育て支援セミナー」*懇談会	

### 2 児童への支援

児童支援計画は、表2のとおりである。

表2 児童支援計画

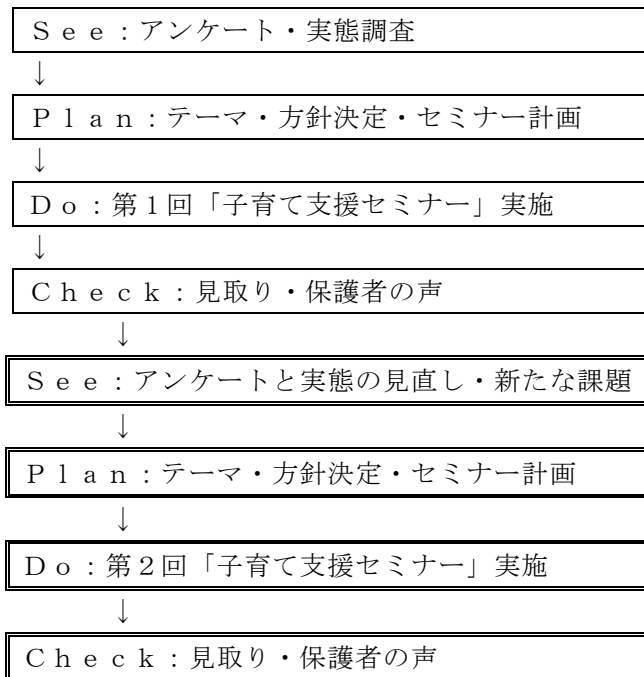
月 日	支援の内容
5. 7	学級基盤づくり（毎週火曜日昼休みに学級レクリエーション継続実施）
5. 11	第1回児童アンケート実施
5～6月	個人面談、チャンス相談（家庭訪問後のケアと悩み相談）
9～3月	学年基盤づくり（毎週火曜日昼休みに学年レクリエーション継続実施）
10月	第2回児童アンケート実施 個人面談、チャンス相談

## V 実践

本研究テーマの「信頼感」とは、信じて頼る気持ちであり、教師と保護者、教師と子ども、保護者と子どもの間に生まれるものとする。また、「きずな」とは、断とうにも断ち切れない人の結びつきで、親子の間に生まれるものとする。

### 1 保護者への支援

#### (1) 「子育て支援セミナー」展開のしくみ



\*以下、S・P・D・C・・・と第5回セミナーまで続く。

#### (2) 「子育て支援セミナー」の実践

従来の学級・学年懇談会では、保護者は担任の話や説明を聞くことが主であった。故に、出席率が低く、保護者同士の交流が望めなかったと考えられる。そこで、今年度の懇談会は学年懇談会として、「子育て支援セミナー」を取り入れた。「子育て支援セミナー」は、保護者参加体験型のセミナーであり、保護者同士の情報交換の場、家庭教育について考える場、保護者同士の交流の場である。保護者が主体となり、互いに子育てについて考え、振り返り、情報交換することは、保護者同士の信頼関係を築いていく上で重要な場である。セミナーを開催するにあたり、保護者に子育ての悩みに関するアンケートを行った。その結果、

- 子ども同士のトラブル・・・4名
- 子ども同士の人間関係・・・5名
- 子どものしかり方とほめ方・・・3名
- 親への反抗・・・・・・・・・・2名

○勉強について・・・・・・・・・・ 3名

○その他

主なものは、友達関係と親子関係であった。そこで、第1回セミナーのテーマは、アンケートの中で一番多い「子ども同士の人間関係」への親のかかわり方とし、以下のような計画で実施した。

ア 第1回「子育て支援セミナー」（5. 15）

テーマ	「子どもが友達とうまく付き合うために、親のとるべき態度は？」
出席率	42. 3%
目 標	セミナーを通して保護者同士が交流を深め、他の保護者の意見や考え方を知り、子どもの視点に立って友達関係を助言できる。
自己紹介	保護者・児童名記載の名札着用。肩もみをしながら子どもの自慢話をする。
課題場面(職員による役割演技)	狩野君と高橋君は仲良しです。今日も放課後、二人で遊んでいました。しかし、ささいなことからけんかになり、狩野君は高橋君にぶたれ、口の横が切れ、血が出ました。狩野君は帰宅後、母親に高橋君と遊ぶことを禁止され、高橋君の家に電話することを伝えられました。
活 動	グループでの話し合い・発表
まとめ	保護者は、子ども同士のトラブルでは、子どもの視点に立ち、気持ちを押し量り、子ども同士の人間関係がうまくいくようなアドバイスをする。
保護者の感想	◎色々な意見が聞けて、参考になりました。親も日々学ばなければならないことがたくさんあると思います。子どもと同じ視点がもちたいです。（資料編参照）
報 告	『「子育て支援セミナー」便り』発行(セミナー便りは以下全て資料編参照)

● セミナー実践後の保護者の変容と見取り

保護者の変容（保護者アンケートより）

◎一度落ち着いてから話を聞くようになった。また、できるだけ事実を聞くように気をつけるようになった。その後で、子ども自身がどのようにしてほしいのか聞くようにした。

教師の見取り

◎導入の自己紹介は有効であった。肩もみをしながら楽しそうに子どもの自慢話をしていた保護者が印象的であった。保護者は、子どもの気持ちになって考えることで子どもの視点を確認できた。

次に保護者は、学年の親子関係を一致させ、面識を広げることが大事と考え、子どもとの共同作業を介して保護者の態度を学ぶために、以下のような計画で実施した。

イ 第2回「子育て支援セミナー」（6. 28）

テーマ	「親子グループ共同制作」～どこが大切？子どもが楽しむお弁当づくり～
出席率	92. 3%
目 標	セミナーを通して保護者と子どもが交流を深めることで、互いに協力し合うことの大切さを理解することができる。
活 動	親子で粘土を使ってお弁当づくり
まとめ	子どもたちが楽しく活動するためには、保護者が仲良く協力することが大切。
保護者の感想	◎普段あまり話すことのないお母さん方と、一步踏み込んで共同作業ができたことで、親近感を覚えながら相手に共感していく経験を得ることができたと思います。（資料編参照）
児童の感想	◎とてもすごい作品ができました。楽しかったです。親子でやると笑顔になります。いつも笑ってない人も今日はとても喜んでいました。親子で何かやることは、こんなにすごいんだなと思いました。今日はとても楽しい一日でした。（資料編参照）
報 告	『「子育て支援セミナー」便り』発行

● セミナー終了後の保護者・児童の変容と見取り

保護者の変容（教師の観察）

◎9月14日の公開授業で、運動会に使う法被づくりに85.1%の保護者の参加があった。以前に比べて、保護者同士で相談・協力する場面が多く見られ、保護者欠席児童の様子を気かけながら、自然な様子で声をかけ、手伝う保護者の姿があった。

児童の変容（教師の観察）

◎グループ学習（行動）が難なく行われるようになった。以前は、グループ内の友達関係がうまくいかず、不平不満が出てくることがあった。

教師の見取り

◎お弁当を作っていく過程で、親のすごさを実感し、親を見直している児童の姿が見取れた。  
◎自己紹介を2回（保護者のみ、児童と保護者一緒）行うことは、面識を持つ上で子どもと保護者の親子関係が一致し、より効果的であった。

これから夏休みに入り、子ども同士の交流が活

発化してくる。特に保護者の心配は、子ども同士の人間関係である。そのため、各家庭の方針を保護者が交換する必要があると考え、第3回セミナーのテーマと計画を以下のように決め、実施した。

ウ 第3回「子育て支援セミナー」(7. 27) \*茶話会

テーマ	「友達関係をどのように見守るか」 ～新町第二小 親から子へのかかわり方を示す第17条～
目標	セミナーを通して、保護者同士の交流と意見交換を行うことにより、各家庭の方針を知ることができる。
活動	自己紹介（自己紹介と自分の自慢話） 課題「子どもが友達とかかわる中で、親が大切にしたいことやこうしたいと思っていること」について意見交換する。
まとめ	各家庭の方針を確認し、意見交換をすることで、自己の家庭にはない方針を知り、取り入れられるところは取り入れていくことが大切である。
保護者の感想	◎今回、たくさんの方の意見を聞き、今まで気付かなかったことを参考にすることができました。また、日頃自分が子どもに言っていることや子どもに「こうしてほしい」「こうなってほしい」と思っていることが、他の方々と同意見だったこともあり、コミュニケーションを図ることができました。（資料編参照）
報告	『「子育て支援セミナー」便り』発行

各家庭の方針は「新町第二小～親から子へのかかわり方を示す第17条～」として表3にまとめた。

表3 親から子へのかかわり方を示す第17条

1条	ルールを守る	2条	思いやり
3条	言葉（うそ・悪口を言わない）		
4条	自立	5条	友達づくり
6条	見守る	7条	判断(力)
8条	礼儀正しく	9条	約束を守る
10条	時間を守る	11条	自分らしさ
12条	客観性	13条	子どもの力
14条	仕返し禁止	15条	子どもらしさ
16条	報告	17条	相談

夏休みが終わり、子ども同士のトラブルの報告は一件もなかった。そこで、アンケートを見直し、

2学期は、じっくりと親子関係の振り返りときずなを強める時期であると考え、4回セミナーは、以下のテーマで計画を立て、実施した。

エ 第4回「子育て支援セミナー」(9. 14)

テーマ	子ども、家族との関係について考えよう
出席率	48.0%
目標	セミナーを通して、家族の関係を改めて振り返ることにより、よりよい家族関係を築いていくことができる。
活動	保護者自己紹介とゲーム(人間ボーリング)・家族の自家像を描く
まとめ	親と子ども、家族の関係を客観的に考え、時には修正し、よりよい親子関係・家族関係を築いていくことができるよう常に心掛けることが大切である。
保護者の感想	◎今まで、家族の位置関係を考えることはなく、毎日を時の流れるままに過ごしてきました。今回、自家像を描いたことにより、家族として維持していく部分と改善してみたい所がよくわかり、とても参考になりました。（資料編参照）
報告	『「子育て支援セミナー」便り』発行

● 第4回「子育て支援セミナー」後の保護者の変容(アンケートより)

◎子どもを常に一人の人間としてみるようになった。
◎常に意識して家族のコミュニケーションをとるようにしている。

保護者は、今までのセミナーから子どもの視点に立ったかかわり方や、家族の位置関係を再考し、よりよい親子関係を築くために努力してきた。そこで最後のセミナーは、子どもが日頃親に対して思っていることを伝え、一層親子のきずなを深めていくため、次のテーマと計画を立て実施した。

オ 第5回「子育て支援セミナー」(11. 24)

テーマ	「親への注文書」
出席率	60.3%
目標	セミナーを通して、子どもの視点に立ち、子どもの声を聞くことにより親子のきずなを深めていくことができる。
展開	ゲーム：バースデーライン 活動：親役・子役に分かれてエクササイズを行い、その後、あらかじめ書いておいた児童の「親への注文書」を保護者に渡し、保護者は返事を書く。

まとめ	子どもには子どもの視点があり、どのような声かけをしたらよいか考えて、親の気持ちを子どもに伝えていくことが大事である。
保護者の感想	◎子どもには子どもなりの言い分があり、冷静に親の姿を見ているのだと思いました。(資料編参照)
報告	『「子育て支援セミナー」便り』発行

- 第5回「子育て支援セミナー」後の保護者の変容と教師の見取り

保護者の変容(児童アンケートより)	
◎宿題のことをグチグチ言わなくなった。それにつれて、ぼくも宿題をやるのが早くなった。	
◎夕食に話を聞いてくれるようになった。やさしくもなった。	
教師の見取り	
◎親子は毎日一緒に生活しているが、互いの思いにすれ違いがあることを知った。親の中には、子どもからの注文に涙する親さえいた。子どもは親からの返事を心待ちにしていた。このセミナーで、互いの気持ちを確かめ合い、より深いきずなが築けた。	

### (3) 保護者個人面談・電話相談

- 日時指定の個人面談は、7月下旬から8月上旬にかけて希望制で実施した。
- 保護者からの要望があれば、個人面談・電話相談は、いつでも誰とでも実施した。

## 2 児童への支援

### (1) 学級レクリエーション

- ア 実施時期：1学期毎週火曜日昼休み
- イ 遊び：ドッジボール キックベース ケイドロ 丸ふみ

子どもたちは、毎週学級レクリエーションを楽しむにしていた。チーム分けの方法、遊びの内容は子どもたちが学級会で決め、学級委員を中心に行われた。最初は、ドッジボールになると熱が入り、勝敗にこだわる男子児童が中心となり言い争いが絶えなかった。担任は、その都度男子児童から話を聞き、自己を抑えて遊ぶことの大切さを話し、学級会でみんなの気持ちを出し合い、確認してきた。その結果、6月以降は争いごとがなくなり、学級レクリエーションの目的「みんなで仲良く遊ぶ」を子どもたちが理解し、わがままを抑えて楽しめるようになった。

学級レクリエーションの児童の感想
◎僕が好きな遊びはドッジボールです。最初はけんかばかりで時間が終わってしまうこともありましたが、もうみんななれてけんかはなくなりました。クラス全員でも楽しいのに、2学期は4年生全員なので1学期より楽しく遊びたいと思います。

### (2) 学年レクリエーション(以下、学年レクと略す)

- ア 実施時期：2、3学期毎週火曜日昼休み
  - イ 遊び：ドッジボール しっぽ取り ボールリレー ねことねずみ など
- 遊びは子どもたちから募集し、教師も提案した。班分けは、1～4年生までの学級や運動会の団別など工夫し、11月からは完全に児童主導とした。また、計画的にソーシャルスキルトレーニング(あいさつ・上手な断り方・解決策など)を朝の会や道徳で行い、スキルを身につけながら実施した。

学年レクの児童の感想
◎学年レクで一番よかったと思ったところは、みんなと一緒に楽しく遊ぶことです。1組の転校生とも仲良くなれました。
◎以前は、友達に自分から話しかけられなかったけど、学年レクをやってから、少しだけ話しかけられるようになれました。

### (3) 児童個人面談・チャンス相談・アンケート

- 個人面談は、5月下旬～6月上旬に家庭訪問で知り得た情報に対する児童へのケアを中心とした。チャンス相談は、適宜取り入れた。
- アンケートは5月と10月に2回実施。アンケートより悩みを吸い上げて、相談を受けた。

### (4) 学級・学年レクリエーション実践後の児童の変容と教師の見取り

児童の変容(教師の観察)
◎学年全員で遊ぶことで、集団遊びのルールが身につく、自分を抑えて楽しく遊ぼうという意識が高まり、けんかはほとんどなくなった。
◎学年レクでは、毎回変わる班分けの工夫で子ども同士の結びつきが増し、仲良くなれた。
教師の見取り
◎他学級の児童と仲良くしたくてもその機会を作れない子は、学年レク中に自然に触れ合う機会をもてた。学年レクの実施は人間関係づくりに適していた。
◎学年レクを話題に、教師と子どもと話をする機会が増え、コミュニケーションが広がった。

### 3 実践を通じた研究者の学び

- 第5回セミナーで保護者は、子どもが書いた「親への注文書」を教師が渡すと皆優しい表情で読み始めた。周りの保護者と歓談しながら子どもの気持ちに触れて涙ぐむ保護者、「かわいそうな事したな。」とつぶやく保護者、静かにうなづく保護者、意外な注文に笑い出す保護者など、普段の子どもとの関わりを振り返りながらの反応は様々であった。そして、親は真剣に子どもへ返事を書き、返事は後日、担任から児童に手渡された。子どもたちは、待ちに待った返事を興味深そうに読み、その後、子どもからのアンケートより、親の態度に変化があったとの回答が多く、たった1枚の小さな「注文書」は親子のきずなを深めることに役立った。また、このセミナーは、子どもの「注文書」に涙あり、笑いありの暖かな雰囲気の中で行われ、教師側もそれを見て、胸が熱くなったり一緒に笑ったりと、保護者の気持ちに寄り添い、充実した時間がもてた。このような雰囲気の中で、教師と保護者の信頼感は、だんだんと築かれていくことを実感した。
- 保護者同士は、毎回セミナー導入時のウォーミングアップ（自己紹介やゲーム）に一生懸命取り組んでいた。第1回セミナーの肩もみは、終始笑顔で子どもの自慢話に花が咲いた。第4回セミナーの人間ボーリングゲームでは、汗をかきながら真剣にじゃんけんを行い、自分のチームの勝利のために頑張る姿が印象的だった。第5回セミナーのバースデーラインは、児童52名が4分でできたことを告げると、「プレッシャーですね。」と時間を気にしながら真剣にゼスチャーを交わし1分で一つのラインにまとまり、満足そうであった。保護者同士の信頼感は、一つのことを皆で協力してやる時に生まれるものであると実感した。
- 学級レクリエーションを始めた頃から、休み時間に一人ぼっちで教室に残っている子や一人で遊んでいる子がいなくなった。また、三年生の時は友達に、「遊びに入れて。」と頼むと断られることがあり、たびたび相談に来る子がいたが、4年生になってからそのことで相談に来る子はいなくなった。楽しくみんなで遊ぼうという遊びのルールが学級レクリエーション・学年レクリエーションを通して身に付いたと考えられる。

### VI 実践への提言

#### ○ 親同士の信頼関係はきっかけが大事

セミナーを開催するたびに、自己紹介やゲームを取り入れてきた。特にゲームは、チームの勝敗がかかっているため真剣に行われた。保護者同士の信頼関係は、一つのことを協力してやり遂げていくことがきっかけとなる。

#### ○ 教師と子どもの信頼関係もきっかけが大事

言いたいことがなかなか言い出せない子がいる。休み時間は外遊び、放課後はすぐに帰宅。一日の中でじっくり教師と話をする時間はあまりない。今年度、個人面談やアンケート、チャンス相談をきっかけとして子どもの気持ちが見え、悩みを共有し、解決してきた。教師と子どもの信頼関係は、子どもと悩みを一緒に考えていく過程で、築かれていったのである。

#### ○ 子ども同士の関わりは遊びが大事

学年全員で、子どもは大好きな遊びを通してルールを学び、わがままを抑えて触れ合うことで、楽しみや喜び、満足感を学んできた。誰かがわがままを言い出すと、楽しい遊びが中断し、がっかりしてしまうのである。今は、争いで遊びが中断することはない。

#### ○ 教師と保護者の信頼関係は悩みの共有が大事

教師が思っている以上に保護者は悩んでいることを、セミナーを通してアンケートや話の中で知った。保護者の悩みを共感的に受け止め、共有し、解決に向けて支援をしていくことが大事である。その中から信頼関係は生まれていく。

### VII 今後の課題

第1回のセミナーでは男子の例であったが、女子の例も取り上げてほしいという声にこたえること、また、セミナーはすべて担当学年の実態に沿って計画したもので、学校全体へは広げなかったが、他学年や中学校でも「子育て支援セミナー」が行われるとよいという声をいただいたため、教職員に理解を求めて、「子育て支援セミナー」を学校全体へ広げていくことが今後の課題である。

(担当指導主事 武藤 榮一)